

都 城

# 民学協同の場に 存続祝い市民会館秋祭り

南九州学園への二十年  
間無償貸与が決まり、存  
続する見通しとなったこ  
とを祝う都城市民会館の  
秋祭りが、旺市八幡町の  
市民会館で十一日あった。

約千名個の風船を貸会  
館周辺に飾るブライ  
ントには約百人の市民が  
参加。同会館の再生利用  
を考える会代表の黒木文  
雄さん（左）が「市民会館  
を残すため、これからは  
皆さんのお力添えをお願  
いしたい」とあいさつ。  
記念撮影の後、風船を空  
へ飛ばした。

続いて近くの市総合福  
ら特別ゲスト四人が意見  
を交わした。  
「市民団体の事務局を  
入れてほしい」「設計者  
である菊竹清訓さんに関  
する博物館を会館内に設  
けてみては」「などといっ  
た提案が出され、黒木代  
表は「市民会館が、民学  
協同の場になれば」と  
期待していた。



風船を飛ばし、都城市民会館存続を喜ぶ市民たち

2007.11.17 宮崎日日

# 「保存」喜び風船舞う

都城市民会館  
一帯で秋祭り  
活用策探るシンポも

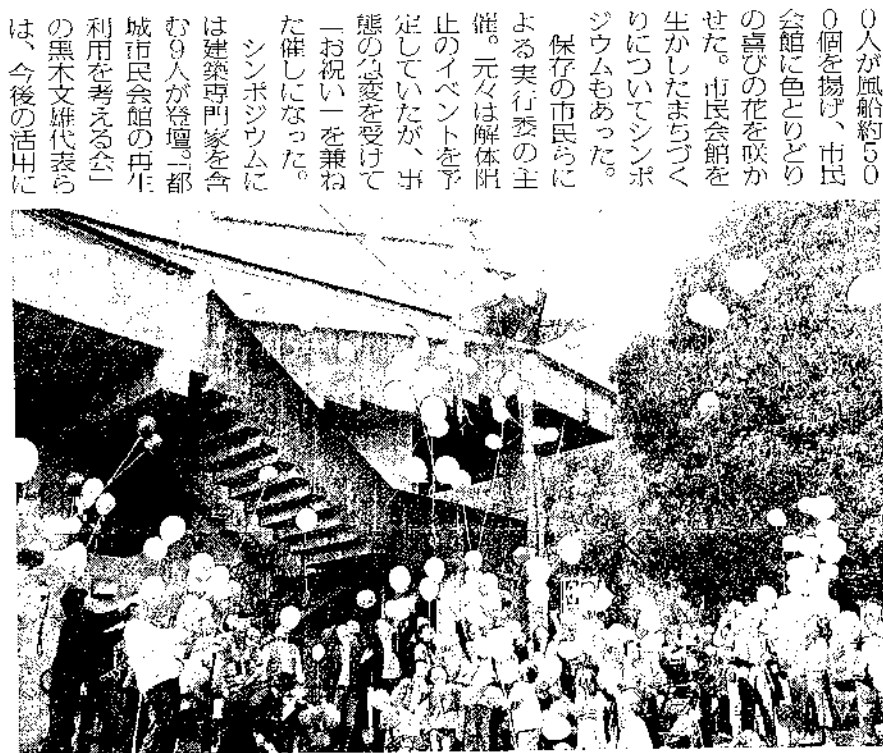
都城市が南九州大への無償貸与方針を決め、保存活用の見直しとなった都城市民会館。帯で口、市民会館秋祭り」があった。保存運動に取り組んできた市民ら約100人が風船約500個を揚げ、市民会館に色とりどりの喜びの花を咲かせた。市民会館を生かしたまちづくりについてシンポジウムもあった。

保存の市民らによる実行委の主催。元々は解体阻止のイベントを予定していたが、事態の急変を受けて「お祝い」を兼ねた催しになった。

シンポジウムには建築専門家を含む9人が登壇。「都城市民会館の再生利用を考える会」の黒木文雄代表からは、今後の活用についで「大学だけではなく市民も一緒に考えるべきだ」として「民学協働」を訴えた。都城島津邸や美術館などと結び、散歩や観光コースに生かそうという提案もあった。

建築専門家からは「貴重な現代建築を残し、まちづくりに生かすことができれば、同じような問題を抱える各地の参考になる」と期待を述べた。

【木元六男】



色とりどりの風船を揚げる参加者

毎日新聞 2007. 11. 13 (火)